

保護者の皆様へ

令和 8 年度 全国学力・学習状況調査の市全体の結果について

本調査は、文部科学省が全国の小学 6 年生と中学 3 年生を対象に毎年実施している調査で、子どもたちの学力や学習状況を把握・分析することで、課題点を洗い出し、授業改善に役立てています。本通知では、袋井市全体の分析結果や今後の取組を紹介します。

各学校でも、袋井市全体の分析結果を踏まえて自校の結果を分析しております。お子さんの学校の結果については、コドモン配信やHPで公開しておりますので、「市全体の結果」と合わせてご覧ください。

袋井市では、令和 3 年度より、子どもたちの「粘り強く考えようとする力」を育むために、「『袋井型』授業づくり」に取り組んでいます。「『袋井型』授業づくり」では、以下の 3 つの要素を大切に授業を計画し、実践しています。

子どもが考えたくなるような、「**？型の学習課題**」を設定する。
自分自身の考えを深めるために、**対話や議論の場**を設定する。
自分自身の納得した考えを「**個のまとめ**」として書く時間を設定する。

袋井市においては、本調査での正答率や質問紙調査の結果に加えて、記述式問題の無解答率に着目しています。「『袋井型』授業により、「粘り強く考えようとする力」を身に付けることが、結果的に記述式問題の無解答を減らすことにつながるととらえています。

各校では、各校の結果や今後の取組と合わせて保護者へのお願いをお伝えしています。本調査では、子どもたちの学力だけでなく、日々の生活や学習の状況調査も行っています。それにより、生活習慣や学習習慣と、子どもたちの学力との関係性が明らかになりました。学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを支えていくことが、子どもたちの成長には欠かせません。保護者の皆様のお力添えをどうぞよろしくお願いいたします。

「各校の結果」をお読みいただき、家庭での過ごし方について、ぜひお子さんと話し合ってみてください。



©袋井市

I 調査の概要

- (1) 実施日 令和 8 年 4 月 23 日 (木)
- (2) 対象 小学校 6 年生 (国語 763 名・算数 763 名・学習状況調査 787 名)
中学校 3 年生 (国語 811 名・数学 815 名・英語 815 名・学習状況調査 817 名)
- (3) 実施内容 国語・算数(数学)・英語(中学のみ)・学習状況調査
- (4) 調査問題 国立教育政策研究所 HP で公開

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

2 学力調査と学習状況調査の結果

(1) 学力調査

ア 全体の結果

教科	小学校		中学校		
	国語 (13 問)	算数 (16 問)	国語 (15 問)	数学 (16 問)	英語 4 技能 (19 問)
袋井市	55	51	65	59	503
全国 (公立)	60.9	56.4	63.9	57.0	499

※ 袋井市の結果は整数での集計、全国の結果は小数第一での集計となっています。上の結果は、問題の軽重に関係なく、全問題のうちの正答した割合(平均正答率 単位：%)を示したものです。

※ 中学校英語は、タブレットを活用したテストです。問題の難易度から学力を予測し、基準値 500 を基に IRT スコアとして算出します。

イ 記述式問題の無解答率

解答用紙に何も書いていない児童生徒の割合が高いと無解答率（単位：%）が高くなります。袋井市では、0%を目指しています。

(ア)国語

設問	小学校		中学校		
	2 四	3 三 (2)	2 四	3 四	4 四
袋井市	8.0	23.5	13.3	11.1	19.2
全国 (公立)	5.2	15.6	14.7	10.7	18.6

(イ)算数・数学

設問	小学校				中学校			
	1 (4)	2 (2)	3 (3)	4 (1)	6 (3)	7 (2)	8 (2)	9 (3)
袋井市	6.8	7.6	5.4	6.4	26.9	39.2	21.1	31.5
全国 (公立)	5.8	7.2	3.2	3.7	26.5	39.6	22.2	28.9

(ウ)英語

設問	中学校			
	10 (2)	12	13	14
袋井市	15.3	14.0	7.5	12.7
全国 (公立)	14.6	8.7	9.3	14.2

(2) 「粘り強く考えようとする力」の定着に着目した問題の結果分析

① 小学校国語【問題2四】

「生活と太陽」という本には、「白は熱や光を反しやすいため、熱くなりにくい。一方、黒は熱や光をきゆうしゆうし、熱くなりやすい。」と書かれている。特に強い日差しが照りつける
えん天下では、黒い服より白い服を着る方が、すずしく過ごすことができそうだ。(123字)

模範解答

○ ○ ○ ○ ○
 ぬき出した本の題名と本文の一部の内容はかきかっこ()でくくること。
 ぬき出した内容をもとに、すずしく過ごす衣服の色について考えたことを書くこと。
 百四十字以内にまとめて書くこと。

〔条件〕
 ○ ○ ○ ○ ○
 【集めた情報】の中から、本の題名と本文の一部の内容を選んで、ぬき出して書くこと。
 ぬき出した本の題名と本文の一部の内容はかきかっこ()でくくること。
 ぬき出した内容をもとに、すずしく過ごす衣服の色について考えたことを書くこと。
 百四十字以内にまとめて書くこと。

【花山さんの文章の続き】

4 すずしく過ごせる衣服の色は何色か
 「色の効果」という本には、「青は海や水を連想させ、すずしそうに見える。」と書かれている。青や水色などひんやりとしたイメージのある色の服を着ることで、長そででもすずしく過ごすことができそうだ。
 また、
 5 終わりに
 これまでなんとなく選んでいた衣服も、日差しをさえぎるくふうや、衣服の形、着方、色をくふうすることによって快適に過ごせることが分かった。今回分かったことを生かし、これからの生活の中で衣服をくふうしていきたい。
 (参考文けん)

【集めた情報】

本の題名	本文の一部
色の効果	青は海や水を連想させ、すずしそうに見える。白は雪の色であり、冷たい印象がある。赤があたたかく感じられるのは、太陽や火を連想させるからだ。
生活と太陽	白は熱や光を反しやすいため、熱くなりにくい。一方、黒は熱や光をきゆうしゆうし、熱くなりやすい。
夏のくらし方	白やうすい青はさわやかに見え、すずしく感じます。さらに、着ている人だけでなく、周りの人にもすずしさを感じさせます。

四 花山さんは、「集めた情報」をもとに、「すずしく過ごす衣服の色は何色か」について考えたことを【花山さんの文章の続き】に書いています。あなたが花山さんなら、
 どのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

〈結果〉

- ・正答率▲：全国よりも低い。
- ・無解答率▲：全校平均よりも高い。

	正答率	誤答率	無解答率
袋井市	39.1	54.1	6.8
全 国	45.2	49.0	5.8

【趣旨】互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができるかどうかをみる。

【分析結果】引用すべき箇所と自分の考えを区別して書き表すことができていない。

【授業改善のポイント】

- ・条件に合わせて書くことの必要感をもつことのできるような問いを設定する。その問いに対する自分の考え、友達との対話により言語化する機会をつくる。
- ・答えを書いて終わりではなく、書いた文章を条件に合わせて推敲したり、書き直した文章を最初にした文章と比べる機会を設けたりすることで、より条件に合った文章を書くことができるようにする。
- ・各教科・領域において、段階に応じた記述指導や読書指導を積み重ねていく。

② 中学校国語【問題3四】

四 石井さんは、自分が書いた文章について、山田さん、田中さんと交流し、この文章のよい点や改善点と、それを踏まえた今後随筆を書くときに生かしたいことをメモにまとめています。あなたならどのように書きますか。【1段落についての交流場面①】をもとにした【メモ①】の書き方を参考にしながら、【1段落についての交流場面②】をもとにして【メモ②】を書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

【1段落についての交流場面①】

石井 【1段落で、絵を描くことが趣味だということをお印象付けるように工夫したのですが、どうでしたか。

山田 最初の「私には趣味がある。」という一文で、趣味は何だろうと知りたくなり、先を読みたくなりました。

田中 私もそう思いました。

【1段落についての交流場面②】

石井 スケッチブックを「相棒」と表現したことはどうですか。

田中 「その時々私の気持ちを相棒が教えてくれる」とスケッチブックを人のように表現しているのが印象に残りました。

山田 スケッチブックは今までの自分の気持ちが詰まっているものだから、「相棒」よりふさわしい比喩もあるのではないかと思います。

模範解答

〈よい点や改善点〉

スケッチブックを「相棒」と表現したのはよかった。しかし、他にもふさわしい言葉があったかもしれない。

〈生かしたいこと〉

読み手の印象に残るように比喩を用いる。その際、選んだ言葉がふさわしいかどうかを考える。

【メモ①】

〈よい点や改善点〉

冒頭で「私には趣味がある。」と趣味が何かを明かさないうことによって、読み手に先を読みたいと思わせることができた。

〈生かしたいこと〉

随筆を書くときは、書き出しの工夫をする。

【メモ②】

〈よい点や改善点〉

「生かしたいこと」

〈結果〉

・正答率：全国とほぼ同じ。

・無解答率▲：全校平均よりも高い。

	正答率	誤答率	無解答率
袋井市	45.2	43.6	11.1
全 国	45.0	44.3	10.7

【趣旨】表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことができるかどうかをみる。

【分析結果】話し合い活動の事例から必要な情報を抜き出し、まとめる力が不十分。

【授業改善のポイント】

- ・資料を読んだり、文章に記述したりする目的を明確にした学習課題を設定する。
- ・国語だけでなく、各教科・領域において、「問いに対する自分の考えを書く、話す」「友達との対話・議論」「自分の考えの再構成」という学びを単元・授業に位置づけ、対話・議論により自分の考えが深まったという経験を積み重ねることができるようにする。

③ 小学校算数【問題 1 (4)】

(4) はやとさんは、図2のような直方体の箱に入ったおかしを宅配便で送ろうとしています。

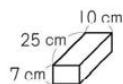


図2

A社の宅配便で送るとき、直方体の荷物の送料は、3辺の長さの合計で決まります。

3辺の長さの合計を求める式

$$(\text{縦の長さ}) + (\text{横の長さ}) + (\text{高さ})$$

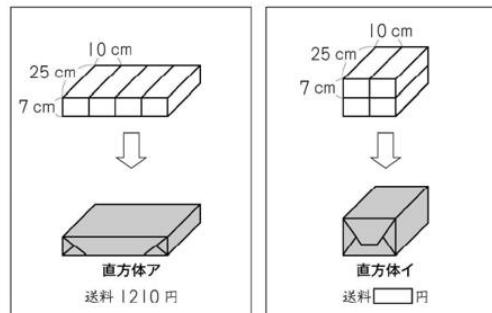
3辺の長さの合計が100 cm以下の荷物の送料は、下の表のとおりです。

A社の送料

3辺の長さの合計	送料
60 cm 以下	920 円
60 cm より大きく 80 cm 以下	1210 円
80 cm より大きく 100 cm 以下	1510 円

図2のおかし1箱の場合、3辺の長さの合計は、 $25 + 10 + 7 = 42$ で42 cmです。42 cmは60 cm以下なので、送料は920円です。

はやとさんは、図2のおかし4箱をまとめて紙で包み、1つの直方体の荷物にして送ります。まとめ方によって送料にちがいがあるかを調べるために、下の2つのまとめ方でできる直方体アと直方体イの送料を求めることにしました。



直方体アの送料は1210円です。

直方体イの送料は何円ですか。

直方体イの送料の求め方を

- ・3辺のそれぞれの長さ(縦の長さ、横の長さ、高さ)
- ・3辺の長さの合計

がわかるようにして、数や言葉を使って書きましょう。

また、送料が何円になるのかも書きましょう。

ただし、紙の厚さは考えないものとします。

模範解答

(4) 【求め方】(例) 直方体イの3辺の長さは、それぞれ25 cm、 $10 \times 2 = 20$ で20 cm、 $7 \times 2 = 14$ で14 cmです。3辺の長さの合計は、 $25 + 20 + 14 = 59$ で、59 cmです。59 cmは60 cm以下なので、送料は920円です。

【送料】 920 (円)

〈結果〉

- ・正答率▲：全国よりも低い。
- ・無解答率▲：全校平均よりも高い。

	正答率	誤答率	無解答率
袋井市	39.1	54.1	6.8
全 国	45.2	49.0	5.8

【趣旨】日常生活の問題を解決するために、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。

【分析結果】答えだけでなく、「なぜそうなるか」という手順や根拠を式や言葉を用いて説明することが苦手。

【授業改善のポイント】

- ・問いに対する答えを、図や表を使ってペアやグループで友達とともに考えたり、説明し合ったりする活動を設定する。資料を読み取って得た結論について誤りがないか、自分自身で振り返る活動や、友達とチェックし合う活動を取り入れる。
- ・練習問題やテストでは、答えだけに着目するのではなく、正誤に関わらず答えを導き出す過程に注目して子どもの思考を見取り、指導に生かすことができるようにする。
- ・各教科・領域において、低学年の段階から、「まず」「次に」「さらに」など、手順を示す言葉を使って説明する機会を設定する。

④ 中学校数学【問題 9 (3)】

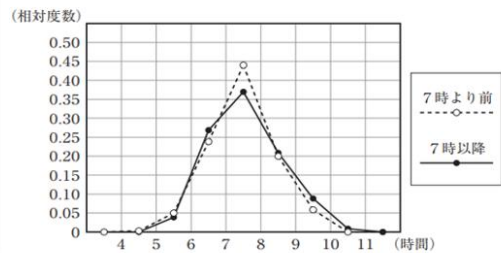
(3) 二人は、睡眠時間の特徴をさらに知りたいと思い、全校生徒を次のように分け、睡眠時間の分布の傾向を調べることにしました。

桃音さん…起床時刻が 7 時より前と 7 時以降の生徒に分ける
悠真さん…就寝時刻が 23 時より前と 23 時以降の生徒に分ける

桃音さんは、起床時刻で分けた場合について、各階級の相対度数を求めて度数分布多角形(度数折れ線)に表しました。

桃音さんが調べたこと

起床時刻が 7 時より前の生徒… 211 人
起床時刻が 7 時以降の生徒… 89 人



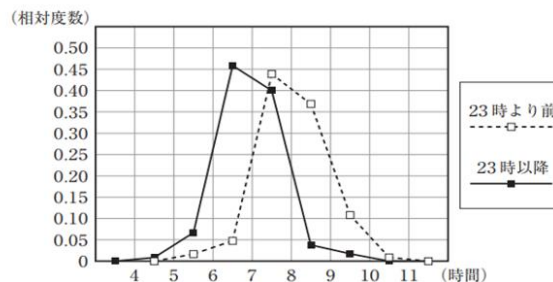
桃音さんは、上の 2 つの度数分布多角形を比較して、次のようにまとめました。

桃音さんのまとめ

2 つの度数分布多角形は同じような形である。また、2 つの度数分布多角形はほぼ同じ位置にある。
したがって、起床時刻が 7 時より前の生徒と 7 時以降の生徒の睡眠時間は同じような傾向にある。

悠真さんが調べたこと

就寝時刻が 23 時より前の生徒… 152 人
就寝時刻が 23 時以降の生徒… 148 人



悠真さんが調べたことの 2 つの度数分布多角形を比較すると、「就寝時刻が 23 時より前の生徒と比べて、23 時以降の生徒の方が睡眠時間が短い傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、悠真さんが調べたことの 2 つの度数分布多角形の形と位置を比較して説明します。前ページの桃音さんのまとめを参考にして、下の説明を完成しなさい。

説明

したがって、就寝時刻が 23 時より前の生徒と比べて、23 時以降の生徒の方が睡眠時間が短い傾向にある。

模範
解答

二つの度数分布多角形が同じような形で、就寝時刻が 23 時より前の生徒の度数分布多角形よりも、就寝時刻が 23 時以降の生徒の度数分布多角形の方が左側にある。

〈結果〉

- ・正答率◎：全国よりも高い。
- ・無解答率▲：全校平均よりも高い。
- ・正答していない生徒のうち、半数程度は無解答となっている。

	正答率	誤答率	無解答率
袋井市	34.2	34.7	31.5
全 国	31.9	39.2	28.9

【趣旨】データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができるかどうかをみる。

【分析結果】複数のデータを関連をとらえることができていない。

【授業改善のポイント】

- ・複数の資料から必要な情報を抽出し、自分の考えを整理し、説明する活動を多く取り入れる。その過程で、話したり、書いたりして表した自分の考えが、目的や条件などに立ち返って吟味する機会を、習慣となるよう繰り返し設定する。
- ・各教科・領域において、本やインターネットなどを調べ学習を進める際に、1 つのデータだけでなく複数のデータを使って、調べたり考えたりするようアドバイスをす。複数のデータから分かることを友達と話し合い、より妥当性のある納得解を生み出すことができるようにする。

(3) 学習状況調査

結果は、肯定的な回答をした児童生徒の割合を示したものです。

ア 肯定的な回答の割合が（全国と比べて）高かった主な項目

設問	小学校		中学校	
	袋井市	全国比	袋井市	全国比
朝食を毎日食べていますか	83.7	+0.6	82.1	+3.7
(小)6年生までに、(中)1、2年生のときに、受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか	28.7	+8.2	49.3	+20.0
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	33.4	+2.0	32.1	+2.8
(小)6年生までにうけた授業では、国語の授業で、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめていましたか (中)1、2年生のときに受けた授業では、国語の授業で、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめていましたか	33.7	±0	40.5	+4.6
英語の授業は好きですか	38.6	+0.8	24.7	+0.1

イ 袋井市の施策において重要な項目（アの項目を除く）

設問	小学校		中学校	
	袋井市	全国比	袋井市	全国比
学校に行くのは楽しいと思いますか	42.2	▲5.8	51.3	+6.1
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	77.4	▲3.7	77.5	+1.2
自分には、よいところがありますか	39.5	▲4.1	40.9	▲0.1
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	47.4	▲6.0	50.4	+3.7
将来の夢や目標を持っていますか	56.4	▲4.1	37.7	+0.3
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	30.7	▲1.2	37.8	+5.8
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	37.9	▲5.6	44.9	+5.3
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	29.7	▲5.8	41.4	+9.0
総合的な学習の時間では、PC・タブレットなどの ICT 機器を使って、うまく情報を集めたり、整理したり、発表したりできていますか	33.9	▲6.1	44.9	+7.6
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かし解決方法を決めていますか	30.6	▲4.6	43.7	+9.5
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	43.3	▲3.9	59.1	+8.4
(小)6年生までに、(中)1、2年生のときに、受けた授業では、数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていましたか	24.5	▲3.3	31.8	+7.8

「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問に対して、小・中学校とにもよい成果となったことは、学習アプリをご家庭で日常的に活用していることも理由の一つと考えます。今後も、学習アプリを学校や家庭で効果的に活用し、内容の補充として学習、自ら学習内容を選んだり、間違えた問題に繰り返し取り組んだりすることで、自らの学びを調整し、粘り強く学ぼうとする態度の育成を図っていきます。

(4) 正答率が高い児童生徒に見られる傾向（学力調査と学習状況調査の結果より）

ア 家庭生活に関すること

- ・朝食を毎日食べている
- ・毎日、同じくらいの時間に起きている

→家庭でよりよい生活リズムをつくることは、学校生活の安定につながり、学力のベースとなります。

- ・平日の SNS・動画の視聴時間が短い

→平日の SNS・動画の視聴時間が短い児童生徒は、自分の生活をコントロールする力を身に付けているといえます。そのような調整力は、主体的に学ぶ上で欠かせない力となります。

- ・家にたくさんの本がある

→本を手にする機会を増やし、新しい情報を得たり語彙を増やしたりすることは、「考える力」を身に付けていくための基礎となります。

イ 児童生徒自身に関すること

- ・自分にはよいところがある
- ・人の役に立つ人間になりたいと思う
- ・自分と違う意見について考えるのは楽しい
- ・普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある

→自分自身を肯定的にとらえることができている児童生徒は、他者とよりよい人間関係を築くことができます。人間関係が良好であれば、対話や議論に積極的に参加することができ、自分の考えを広げたり、深めたりすることにつながります。

ウ 学び方に関すること

- ・分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている
- ・家庭での勉強時間が長い
- ・PC・タブレットなどの ICT 機器で文章を作成することができる
- ・PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理することができる
- ・PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校での活動でプレゼンテーションを作成することができる
- ・インターネットを使って情報を収集することができる

→自分で学び方を考えて工夫することで、個の学びが充実します。お互いに協力しながら課題の解決に取り組むことで、協働的な学びが実現します。これにより、確かな学力が育まれると考えられます。

→タブレットを学びの道具として有効に活用する力は、「考える力」を身に付けるために必要なスキルであることが分かります。

学校では、家庭での過ごし方について、一日の中でメディアを活用する時間を決めるとともに、趣味だけでなく学習にも ICT 機器を活用できるよう指導しています。また、「まちじゅう図書館」の取組を推進しています。国語で学習したことと関連した本を図書館で借りる、電子書籍「読み放題パック」を利用する、家庭での生活リズムに読書の時間を位置付けるなど、子どもの読書意欲の向上につながるような活動を奨励していきます。

3 今後の授業改善の取組

今回の調査結果分析を受けて、研修主任研修会等で各校の分析結果を共有し、整理・分析した上で、「『袋井型』授業づくり」のステップ1～3における目指す子どもの姿と、指導・見取りのポイントを設定しました。なお、ステップ1～3を、1回の授業にバランスよく位置付けることを基本とします。場合によっては、複数回の授業や単元全体の中にステップ1～3を位置付けることで、それぞれのステップでの活動を充実させることもできます。

ステップ1 子どもが考えたくなるような、「**?型の学習課題**」を設定する。

→このステップにより目指す子どもの姿

「学習課題を解決したい」「友達と意見を交流したい」という思いをもち、学習課題に対する現時点での考えや予想をノートやタブレットに書いたり、友達に話したりしている。

⇒指導・見取りのポイント

- ・「完璧な答え」ではなくても、自分の考えや予想を書いたり、話したりしようとする姿を見取り、認める声掛けをする。

ステップ2 自分自身の考えを深めるために、**対話や議論の場**を設定する。

→このステップにより目指す子どもの姿

単なる感想の言い合いに終わることなく、学習課題に立ち返って、活動の目的や条件、根拠などをグループやペアで確認しながら、自分の考えを説明している。

⇒指導・見取りのポイント

- ・2つ以上の情報（図・表・文章・動画など）から分かることを見つけ出したり、共通点・相違点を比較したりすることができるように、情報の提示の仕方を工夫する。「根拠はある?」「別の資料とどうつながる?」と思考の深まりを促す問いを投げ掛ける。
- ・ICT（ロイロノートの提出箱や共有ノートなど）を活用して、子ども同士の考えの共有をし、子ども自身が友達との考えを比較しやすくする。

ステップ3 自分自身の納得した考えを「**個のまとめ**」として書く時間を設定する。

→このステップにより目指す子どもの姿

ステップ2の対話・議論で得た気付きをもとに、自分自身の納得した考えを「個のまとめ」としてノートやタブレットに書いている。本時の学習を振り返り、ステップ1の段階と比べて、自分の考えが深まったことに気付いている。

⇒指導・見取りのポイント

- ・「個のまとめ」を書く前に、学習課題や条件等を再確認したり、ステップ1で書いた考えと比べたりするように促す。
- ・子ども自身が納得解を導き出すことができるように、「個のまとめ」を一度書いて終わりにせず、自己チェックや友達との相互チェックの機会をつくる。
- ・ステップ1の段階と比べて深まっていた子どもの考えを見取り、価値づける。

各校では、今回の調査対象である国語・算数・数学・英語だけでなく、全教科・領域でステップ1～3を大切にしたい授業計画を立て、実践していきます。